2027年3月期
第２四半期決算説明会

2026年11月2日

ＮＧＫ株式会社
代表取締役社長
小林　茂

ＮＧＫ株式会社、２０２７年３月期の第２四半期決算説明会を始めます。
本日はご多用の中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日のプレゼンテーション

- 2027年3月期　第２四半期 連結決算概要
- 2027年3月期　通期　業績見通し
- 事業セグメント別　今期見通し・展望
- 事業ポートフォリオと事業再生・撤退検討プロセス／NV1000からNV3000へ
- 研究開発費／設備投資・減価償却費
- 要約キャッシュフロー
- 資本政策／配当
- サステナビリティ経営の推進
- 企業価値向上に向けて

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

本資料に記載の金額は、億円未満を四捨五入して表示しています。このため、合計値が内訳の合算と一致しない場合があります。

ご覧のような内容で説明させていただきます。

27年3月期　第２四半期　連結決算概要

（億円）	26年3月期	4月公表値	27年3月期	前年同期比 為替影響	前年同期比 増減率
売上高	3,262	3,500	3,713	+178	+14%
営業利益	487	530	699	+79	+44%
経常利益	467	530	704		+51%
親会社株主に帰属する中間純利益	239	450	608		+155%
為替レート ﾄﾞﾙ	147円	(150円)	160円		+12円
為替レート ﾕｰﾛ	168円	(175円)	184円		+16円

売上高、各利益で上期として過去最高を大幅に更新。投資有価証券売却益を特別利益に計上。

■ｴﾝﾊﾞｲﾛﾒﾝﾄ　(EN)　米国を中心とする出荷増が寄与し増収。利益面では増収効果と費用抑制により増益。
産業プロセスも、医薬用水向けの膜設備や電子部品向けの耐火物が堅調に推移。

■ﾃﾞｼﾞﾀﾙｿｻｴﾃｨ　(DS)　前年同期比大幅な増収・増益。AI用途の半導体需要が大きく増加し、半導体製造装置用製品は好調に推移。
ハイセラムキャリアは増産投資の立上げで出荷が伸長。データセンター投資の拡大を背景にHDD用圧電素子も堅調。

■ｴﾈﾙｷﾞｰ&ｲﾝﾌﾗｽﾄﾘｰ　(E&I)　NAS電池の製造・販売終了により減収となる一方、電力需要の増加に伴い米国を中心に送配電網への投資が拡大し、がいしの需要が堅調に推移。営業損益は黒字に転換。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

まずは終わりました上半期の業績についてご説明いたします。

売上高は３,７１３億円
営業利益は６９９億円
経常利益は７０４億円
当期純利益は６０８億円となりました。

ＡＩ用途の半導体需要の拡大が継続し、当社のデジタルソサエティ事業の出荷が増加したことに加え、
為替円安も寄与し、前年同期比 増収・増益となりました。

当期純利益については、投資有価証券の売却に加え、
海外子会社の清算完了による法人税軽減の影響も増加に寄与しました。

27年3月期　通期見通し

（億円）	26年3月期	4月公表値	27年3月期	前期比 為替影響	前期比 増減率
売上高	6,701	7,100	7,700	+125	+15%
営業利益	950	1,070	1,300	+77	+37%
経常利益	952	1,050	1,260		+32%
親会社株主に帰属する当期純利益	599	820	1,000		+67%
為替レート ﾄﾞﾙ	151円	(150円)	155円	150円	+4円
為替レート ﾕｰﾛ	175円	(175円)	180円	175円	+6円
ROE	7.8%	(10.0%)	12.1%		

下期前提

全セグメントで4月公表値から増収・増益。売上高及び各利益で過去最高を大幅に更新する見込み。

■ｴﾝﾊﾞｲﾛﾒﾝﾄ　(EN)　自動車関連は、費用等の上期反動を見込むものの、上期の出荷増や円安が寄与。
産業プロセスでの電子部品向け耐火物製品の堅調も反映し、4月公表値から増収・増益。

■ﾃﾞｼﾞﾀﾙｿｻｴﾃｨ　(DS)　AI半導体向け需要の拡大を背景に、半導体製造装置用製品とハイセラムキャリアが伸長し、
4月公表値から増収・増益。更なる成長に向け、積極的な投資を継続。

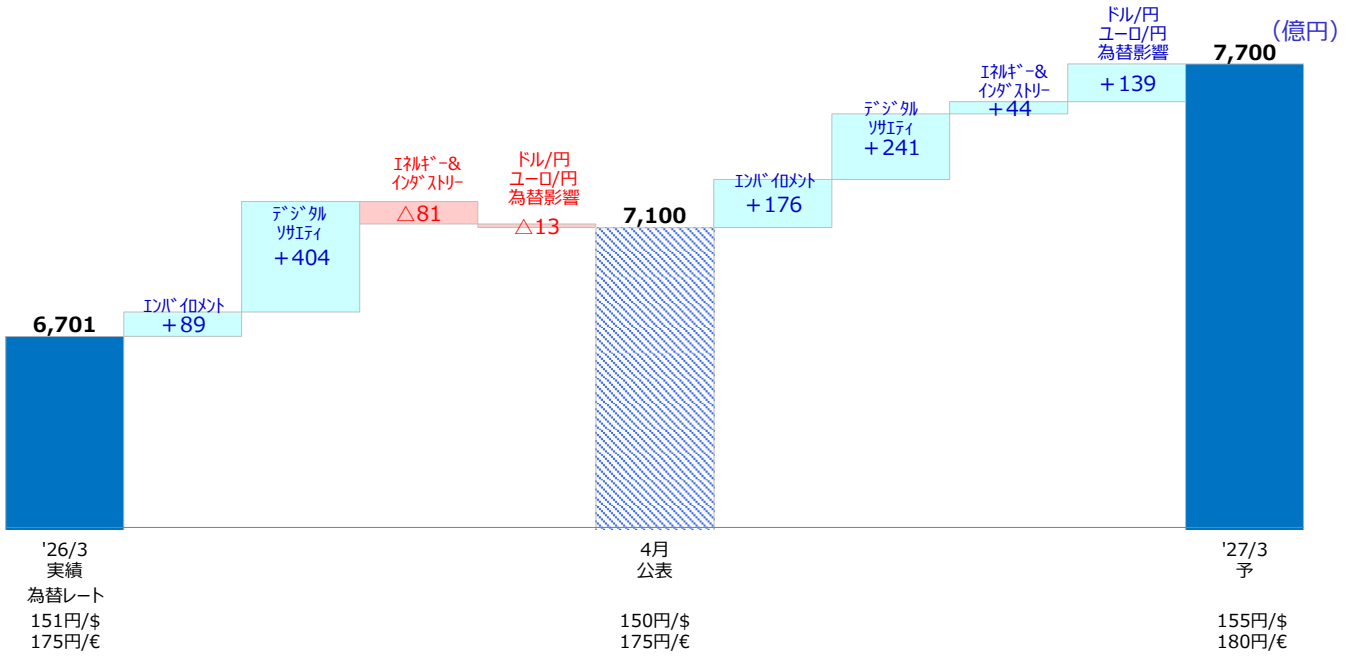
■ｴﾈﾙｷﾞｰ&ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰ　(E&I)　がいしは、データセンター投資の増加に伴い米国を中心に送配電網への投資が継続し、4月公表値から増収・増益。
エネルギープラントは更新需要とメンテナンスを中心に概ね計画どおり。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

続きまして、２７年３月期の業績見通しです。
下期の為替前提を１ドル１５０円、１ユーロ１７５円　とし、
年間平均では１ドル１５５円、１ユーロ１８０円　を想定しております。
売上高は、　　７,７００億円
営業利益は、　　１,３００億円
経常利益は、　　１,２６０億円
当期純利益は、　１,０００億円　といたしました。

４月に公表した業績予想に対し、全事業本部で増収・増益を見込んでおります。加えて、当期純利益には投資有価証券売却益も寄与し、
売上高、各段階利益ともに４月公表値を大きく上回り、過去最高を
更新する見込みです。

27年3月期　売上高　増減内訳



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

売上高見通しの変化内訳についてご説明致します。

左が昨年度の実績、中央が４月に公表した今年度の予想、
右が今回予想です。

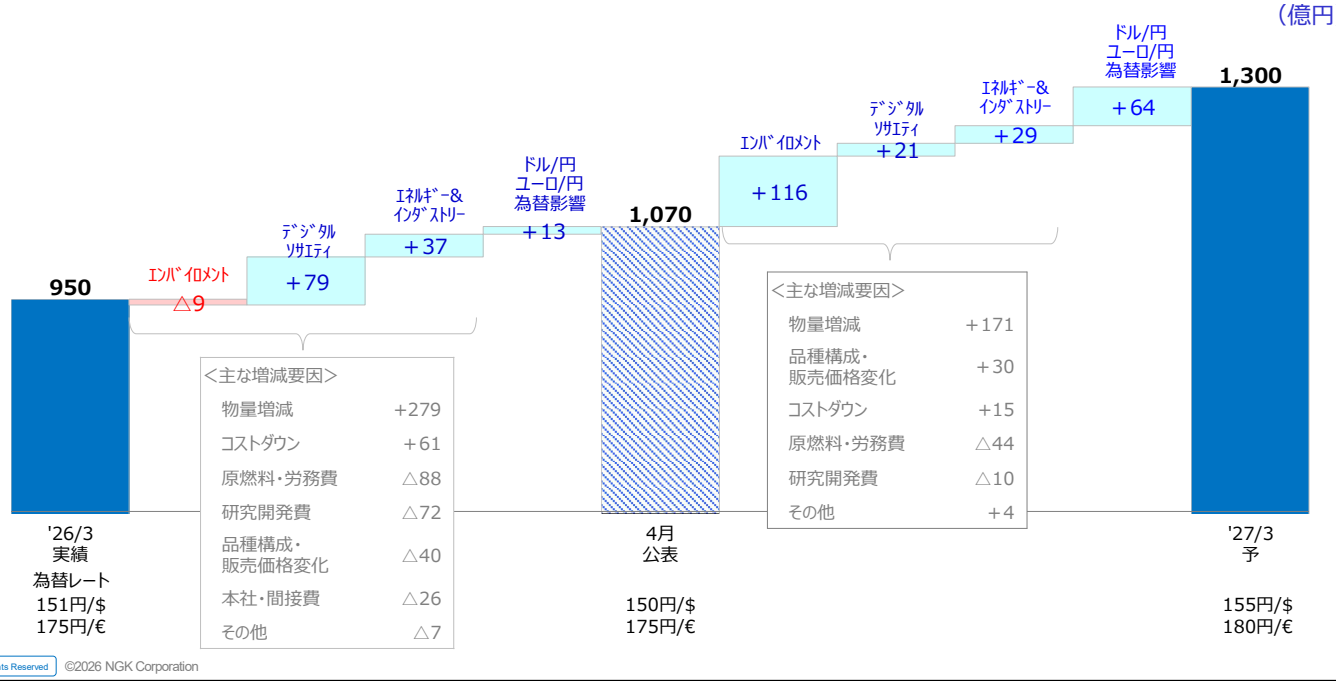
前期実績に対して ＤＳの大幅な増収を想定し、４月公表値の
売上高としては７,１００億円を設定しておりました。

４月公表値からの売上高見通しの変化内訳については、
ドル円、ユーロ円の為替円安影響により、プラス１３９億円を
見込んでおります。

為替を除く事業実勢については、ＥＮでは上期での出荷物量増加、
ＤＳではAI用途の半導体需要の拡大、Ｅ＆Ｉでは送配電網向けの
需要増加を織り込み、売上高は増加する見込みです。

全社の売上高は４月公表値から６００億円増加の７,７００億円を計
画しています。
なお、為替の感応度は、下期で１円円安に変化すると、ドルで９億円、
ユーロで３億円の増収となります。

27年3月期　営業利益　増減内訳



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

営業利益につきましても同様に、グラフ左側の前期実績に対しDSの大幅な増益を見込み、中央の４月公表の営業利益は、１,０７０億円を見込んでおりました。

グラフ右側の今回予想では、4月公表値から２３０億円増加の１,３００億円を計画しております。

増益の内訳につきまして、上期のドル円・ユーロ円が円安に推移した影響により、６４億円の増益を見込んでおります。

為替を除く事業実勢は、３セグメント合計で１６６億円の増益を見込んでおります。ＤＳでは、半導体製造装置用製品等の需要拡大に対応するための先行費用が発生する一方、各セグメントの売上増加に伴う利益増が主な要因です。

なお、営業利益のドル・ユーロの為替感応度は、下期で１円 円安に変化すると、ドルで３.４億円の増益、ユーロで０.７億円の増益影響となります。

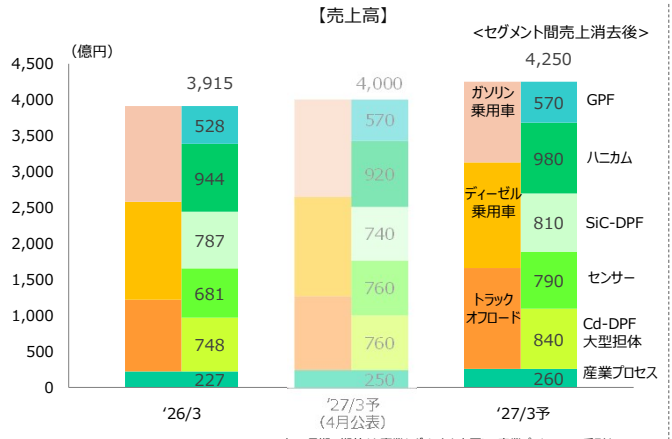
エンバイロメント(EN)事業の今期見通し

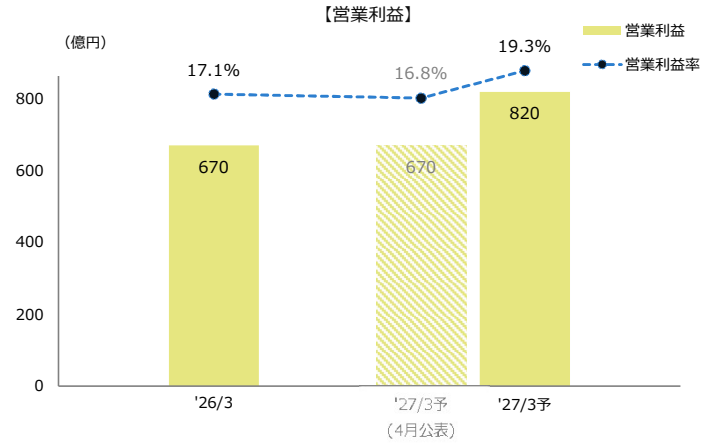
自動車関連

■ 自動車市況は中国市場を始め弱さが見られるものの、上期の米国市場向けの出荷物量増加、円安影響、費用減を織り込み、通期は4月公表値に対して増収・増益の見通し。排ガス規制強化に伴い、ガソリンセンサーは27年度に欧州で需要本格化。GPFの米国規制導入は、当初見込みから2年程度遅れ、29年度頃の見通し。

産業プロセス

■ 医薬用水向け膜設備の安定的な需要の取り込みに加え、電子部品向け耐火物製品の増加により、4月公表値に対して増収・増益の見通し。





※2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

7

続いてセグメント別に業績見通し、事業環境や課題について詳細にご説明させていただきます。

まずは、ＥＮ事業です。

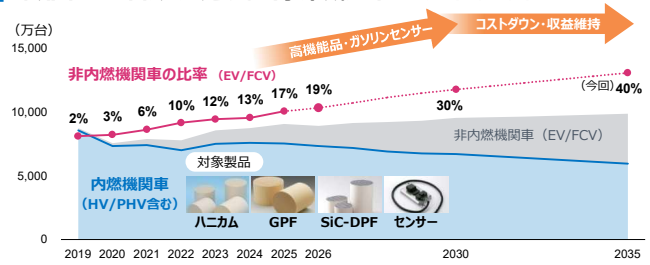
２７年３月期は、売上高４,２５０億円、営業利益８２０億円の見通しに変更しています。

自動車販売について、市況は中国市場を始め弱さが見られるものの、当社製品の売上高については、米国市場向けで上期に出荷が集中したことや、円安影響、費用減を織込み、４月公表値に対し増収・増益の見通しです。

エンバイロメント(EN)事業の展望

■ **EV化は当社想定通りに進展する中で、内燃機関車の需要は継続。ガソリンセンサー等の新製品や高機能品を投入、既存のリソース内で付加価値を最大化し、中長期において安定的にキャッシュを創出する。**

乗用車販売台数 見通しと当事業成長イメージ（当社前提）



各国の乗用車の規制動向 見通し（当社前提）

市場	2022	2023	2024	2025	2026	…	2030	…	2035
日本	PPNLT（WLTC）				GE/GDI・MPI RDE規制				
欧州	EU6d-Full				センサー		EU7		
米国	Tier3 LEV Ⅲ			米国規制は約2年導入遅れ			PM1mg GPF		Tier4（PM0.5mg）
中国	国6a（全土）			国6b（全土）			国7		
インド	BS6 Stage Ⅰ		BS6 StageⅡ				BS7		
タイ	EU4			EU5			EU6b		

データセンター向けディーゼル発電機用DPF搭載黒煙除去装置



データセンター投資の拡大と黒煙問題

- 国内外で大規模なデータセンター（DC）の建設。
- 停電対策として、非常用ディーゼル発電機の導入が増加。
- ディーゼル発電機から排出される黒煙により、生活環境への影響への懸念が増大。

自動車のディーゼルエンジン向けで実績のある高性能セラミックフィルターを搭載

- ディーゼル・パティキュレート・フィルター（DPF）を搭載した黒煙除去装置を開発。
- 地域との共生を重視するDC事業者や産業施設に向けて、信頼性の高いソリューションを提供。
- 発電機上部に直接設置できるコンパクト設計で、都市部や環境配慮が求められる施設に最適。



データセンター向けディーゼル発電機用DPF搭載黒煙除去装置

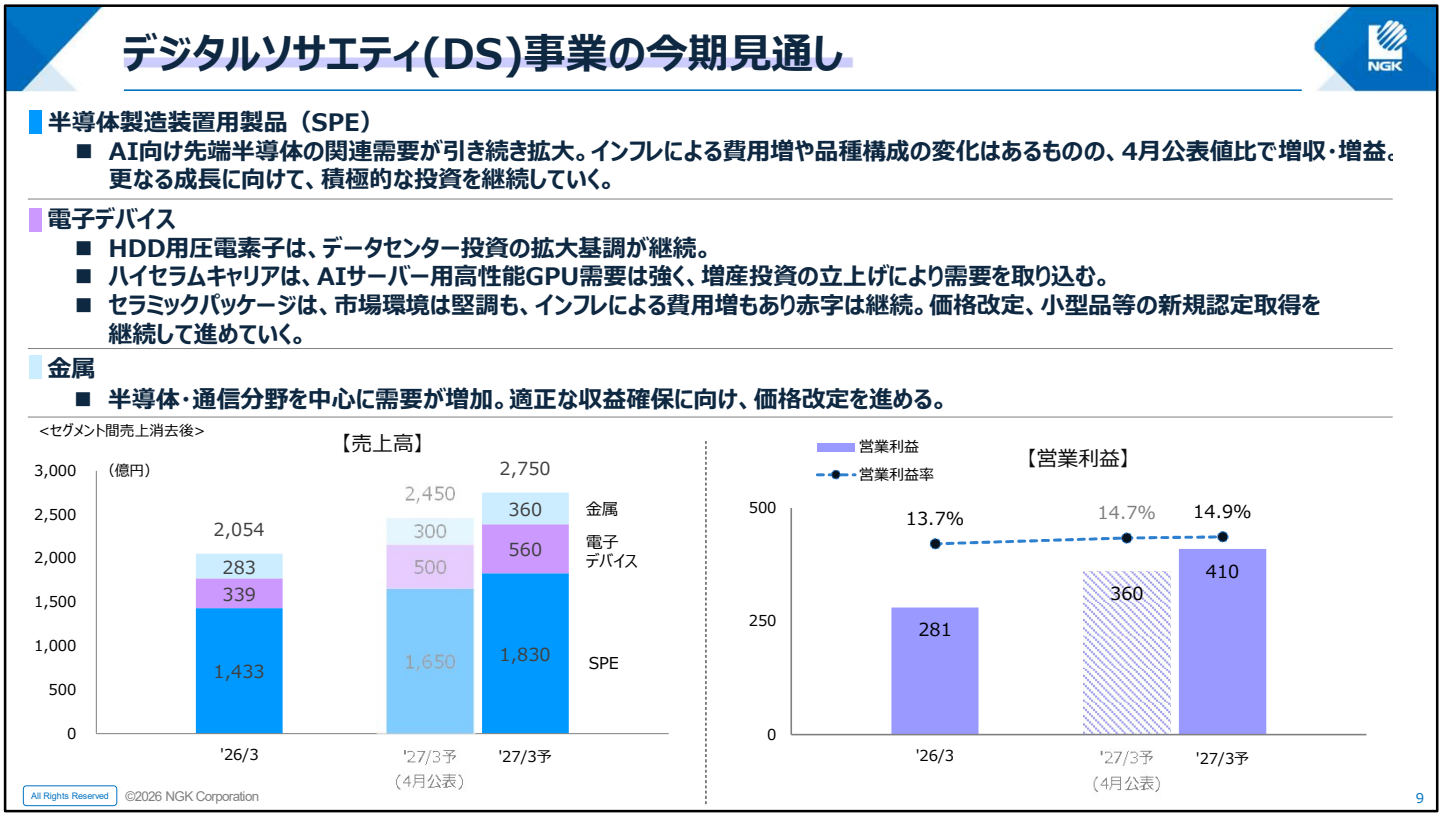

DPFによる黒煙除去の様子（イメージ）
図は生成AIにより当社作成

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

中長期的な取り組みについては変更ありません。
米国のＴｉｅｒ４排ガス規制は２年程度の導入遅れの見通しですが、各国の排ガス規制も継続的に強化が進んでおります。
米国規制強化に対してはＧＰＦ、欧州のユーロ７に対してはガソリンセンサーなど、各規制に対応する高機能製品を投入して参ります。

また新たな用途として、データセンターの非常電源用ディーゼル発電機の黒煙除去装置の引き合いが増加しております。
これは、自動車向けに実績のあるＤＰＦを搭載した装置を自動車関連事業と産業プロセス事業が共同で開発をいたしました。新規用途の開拓についても、引き続き積極的に進めてまいります。

ＥＮは当社のプロフィットセンターとしての役割を果たし、中長期に亘り創出するキャッシュを最大化していきます。



次にＤＳです。今期は売上高２,７５０億円、
営業利益は４１０億円と４月見通しを上回る売上高、営業利益を
見込んでおります。
ＳＰＥにつきましては、ＡＩ向け先端半導体関連の需要が拡大しており、
当社製品の物量も伸長する見通しです。更なる成長に向けて、
積極的な投資を継続してまいります。

電子デバイスにつきましては、データセンター投資が堅調に推移しており、ハードディスクドライブ用圧電素子は増収増益の見込みです。
ハイセラムキャリアはＡＩサーバー用等の高性能ＧＰＵ需要が強く、
増産投資の立上げにより需要を取り込み、４月見通し比で増収・増益。
セラミックパッケージについては、市況が回復していく中で、インフレに伴う費用増もあり、赤字が継続する見込みです。

金属は、半導体・通信分野向けを中心に堅調に推移する見通しです。



こちらはＤＳ事業で扱う半導体製造工程向け製品になります。

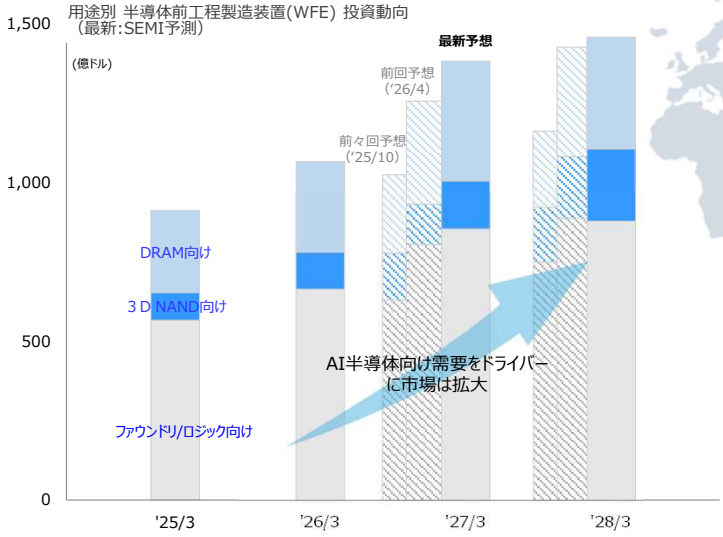
半導体製造の前工程で使用されるセラミックヒーターや静電チャック、チャンバー部材、後工程で使用されるハイセラムキャリアなどが、当社の製品です。
いずれも、半導体製造に必要不可欠な部材となっています。

各製品とも生産能力の増強を進めており、ＡＩ向け高性能半導体の持続的な需要拡大を着実にとらえていきます。
また併せて、保有技術を活用した新製品の創出・既存製品の用途拡大も進めており、既存製品の需要拡大と新製品・新用途の拡大により更なる成長を図ってまいります。

半導体製造装置用製品（SPE）の市況と当社の対応

■ AI半導体向け需要の拡大を捉え、国内外で生産能力を増強。公表済みの設備投資に加え、既存各工場の稼働最大化、人員・設備の増強を進める。中長期的な需要の拡大を見据えたさらなる供給能力の拡充も検討。

■半導体製造装置用製品（SPE）事業の市場環境



■半導体製造装置用製品（SPE）事業の生産拡大



図は生成AIにより当社作成

<設備投資稼働スケジュール>

	26年度	27年度	28年度	29年度
チャンバー部材	アリゾナ増産 設備稼働*1			
ヒーター・静電チャック		追加増強の範囲		石川新工場立上げ*2

*1 2025年10月31日リリース 半導体製造装置部品の米国生産拠点を増強
https://www.ngk.co.jp/news/2025/20251031_5.html

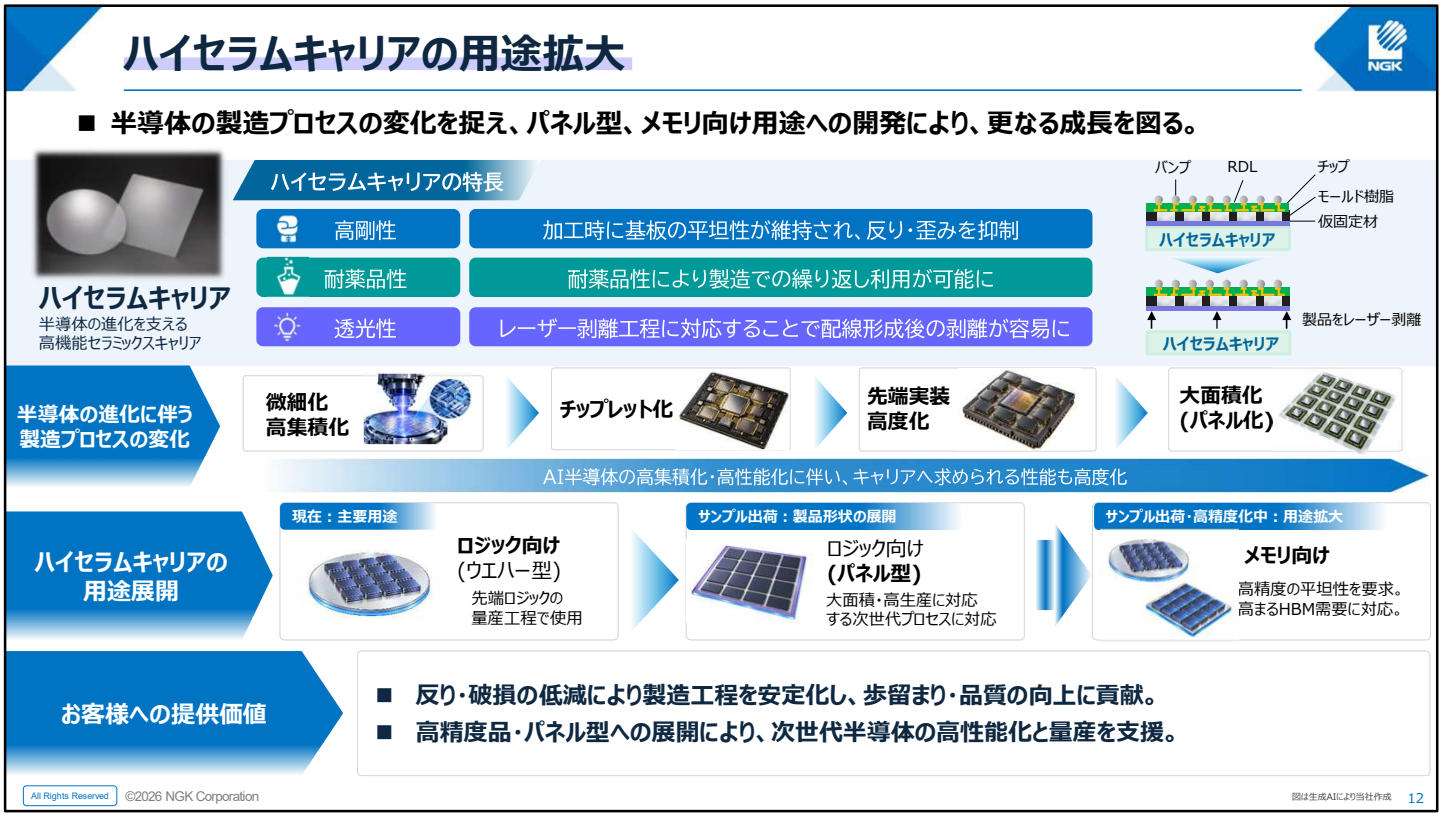
*2 2026年4月24日リリース 半導体製造装置用セラミックスの生産能力を増強 石川県能美市に新生産拠点の設立を決定
https://www.ngk.co.jp/news/2026/20260424_1.html

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

11

続いて、半導体製造装置用製品の市況と当社の対応についてご説明します。

左のグラフのとおり、AI半導体向け需要の拡大を背景に、半導体製造装置市場は成長が見込まれています。
こうした需要を捉えるため、当社は国内外で生産能力の増強を進めています。ただし、公表済みの設備投資だけでは生産能力が不足するため、既存各工場の稼働最大化や人員増強に加え、設備の追加についても検討をしています。
引き続き、チャンバー部材、ヒーター・静電チャックとも生産能力の拡充を進めてまいります。



続いて、ハイセラムキャリアの用途拡大についてご説明します。

これまでご説明した既存製品の生産能力増強に加え、半導体の製造プロセスの変化を捉えた用途開発も進めています。
ハイセラムキャリアは、半導体の加工工程で基板を支える製品です。高い剛性や耐熱性、透光性を備え、加工時の反りや歪みの抑制、仮固定材の剥離などに貢献します。

半導体の薄型化やチップレット化、先端実装の高度化に伴い、キャリアに求められる性能も高まっています。
当社はこうした変化に対応し、従来の円形に加え、大面積のパネル型やメモリ向けの用途開発を進めています。
お客様の歩留まりや品質の向上を支えながら、既存用途の需要拡大に加え、新たな用途の開拓によって、更なる成長を図ってまいります。

エネルギー&インダストリー(E&I)事業の今期見通し

がいし

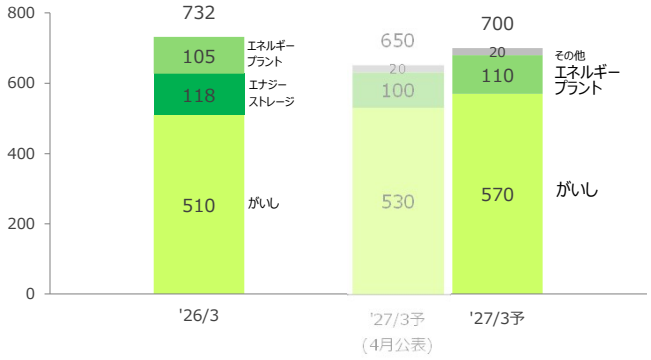
■ **データセンター投資の拡大等を背景に米国の送変電設備が増強され、がいし製品の需要が増加。知多事業所の変電がいし製品生産終了に向けた対応も進展し、関連費用は想定を下回る見込み。将来発生が見込まれる費用等を営業外費用として計上。**

エネルギープラント

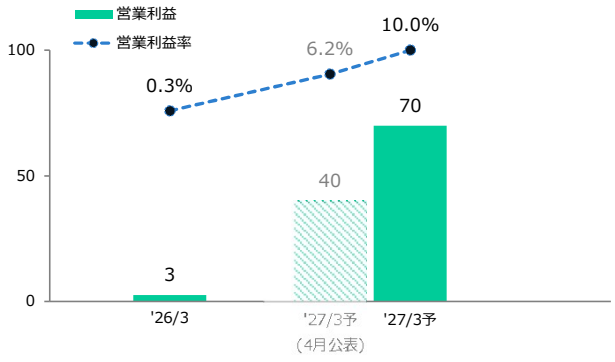
■ **既設案件の更新需要及びメンテナンスを中心に、4月公表値から増収。利益は変更なし。**

<セグメント間売上消去後>

【売上高】



【営業利益】



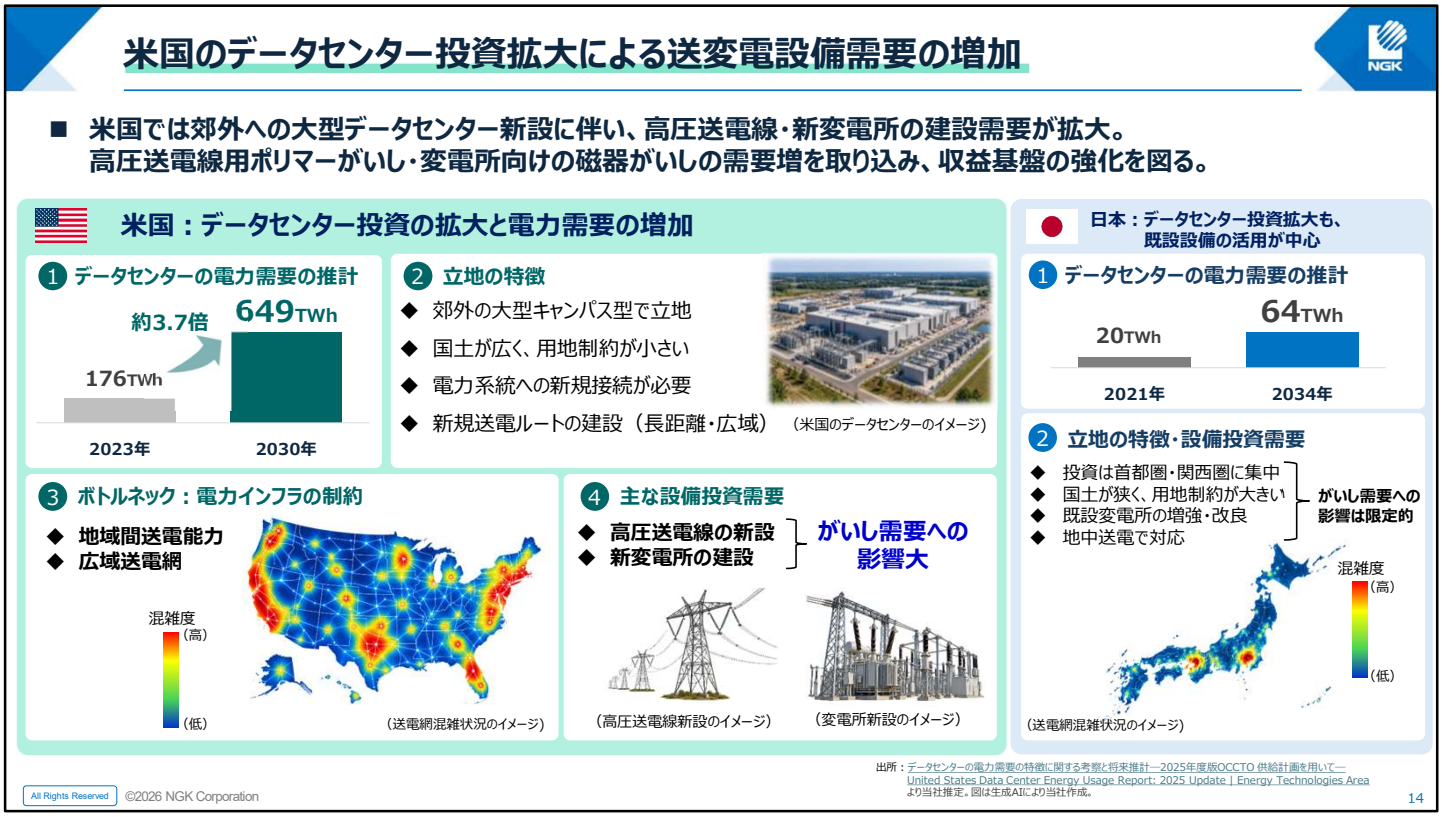
※2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

次にＥ＆Ｉ事業についてご説明します。

当期は、売上高７００億円、営業利益は７０億円となり、４月公表値に対し増収・増益となる見込みです。

アメリカのデータセンター投資を背景とした電力関連投資需要を取り込み、がいし事業は堅調に推移しております。
また、知多事業所で製造する変電がいしの受注終了により、生産終了までに見込まれる関連損失を営業外損失で計上しています。



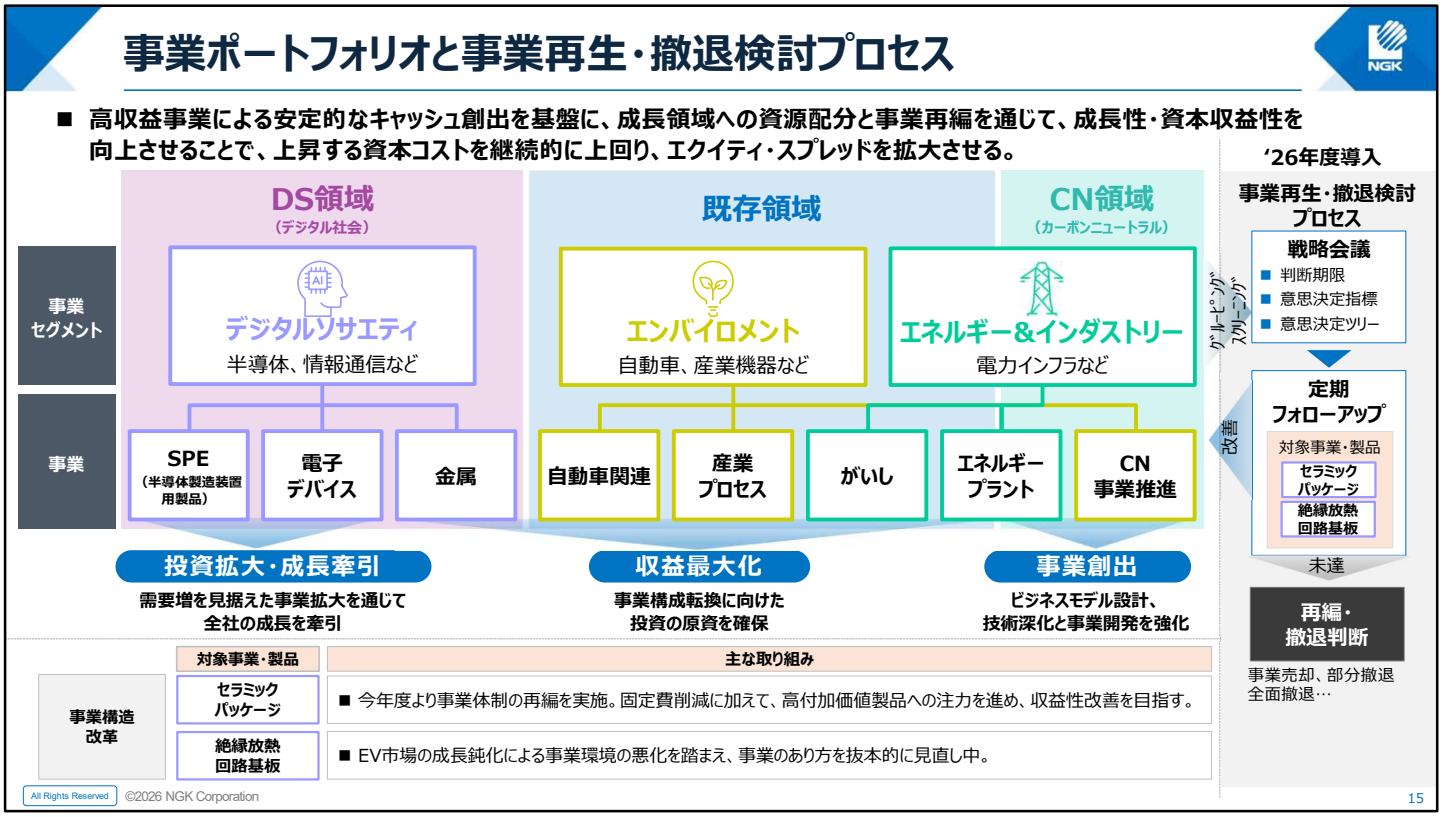
アメリカのデータセンター投資拡大に伴う、がいし需要についてご説明します。

アメリカでは、郊外に大型データセンターを新設する動きが進んでいます。
これに伴い、電力系統への新たな接続が必要となり、高圧送電線や
変電所の建設需要が拡大しています。

左のグラフのとおり、アメリカのデータセンターの電力需要は、２０３０年に２０２３年の約３．７倍となる見通しです。一方、地域間の
送電能力や広域送電網が制約となっており、電力インフラの整備が課題となっています。

日本では既設設備の活用が中心となるのに対し、アメリカでは送電線や変電所の新設が、がいしの需要増につながります。

当社は、高圧送電線用のポリマーがいしや、変電所向けの磁器がいしの需要を取り込み、収益基盤の強化を図ってまいります。



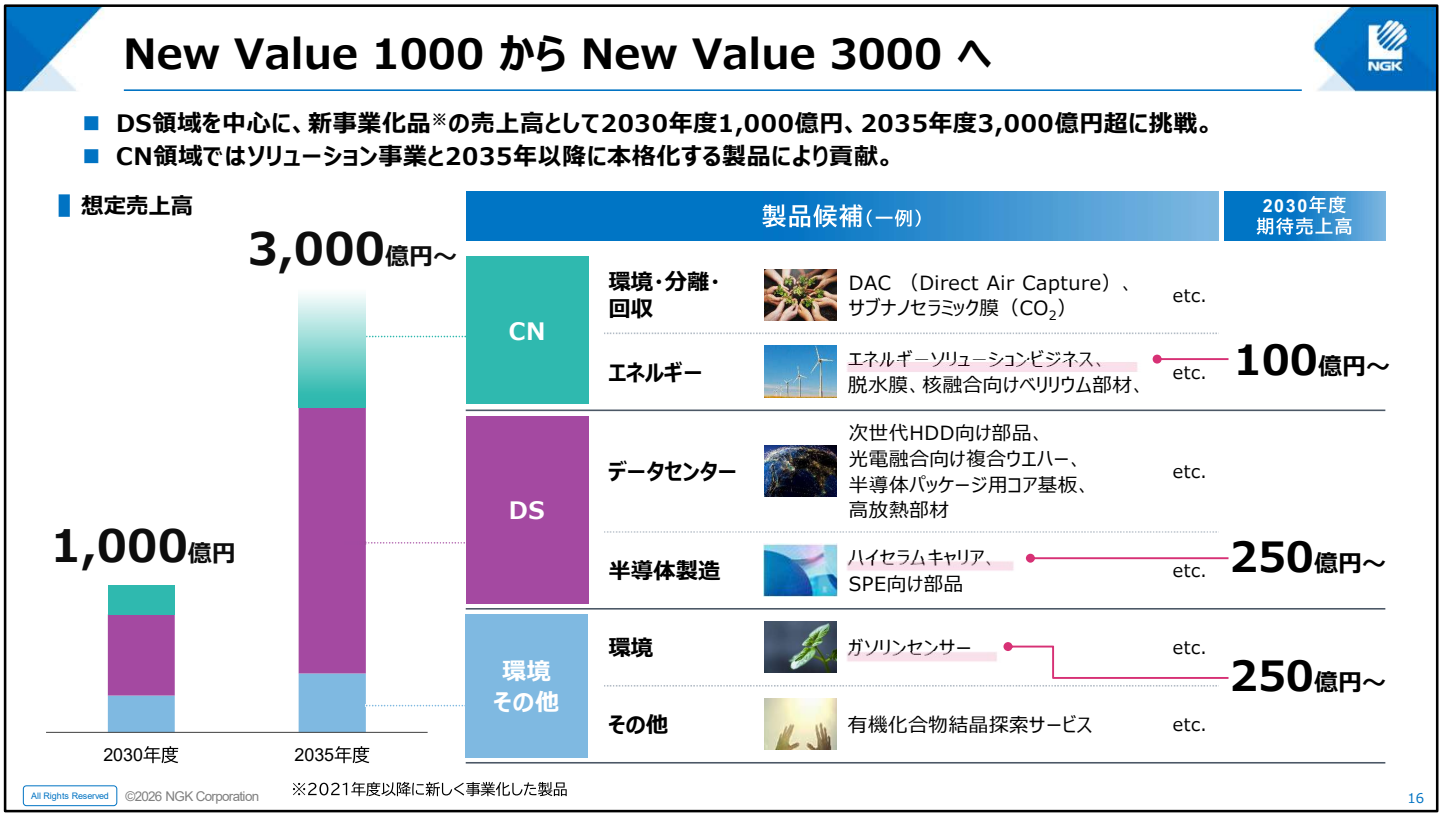
続いて、事業ポートフォリオと、事業再生・撤退検討プロセスについてご説明します。

当社は、高収益事業が生み出す安定的なキャッシュを基盤に、成長領域への資源配分と事業再編を進めています。ＤＳでは投資拡大により成長を牽引し、既存領域では収益を最大化するとともに、カーボンニュートラル領域では新たな事業の創出を目指します。

一方、収益面で課題のある事業には、今年度導入した事業再生・撤退検討プロセスを適用します。判断期限や意思決定指標を設定し、定期的に進捗を確認したうえで、未達の場合は再編・撤退を判断します。

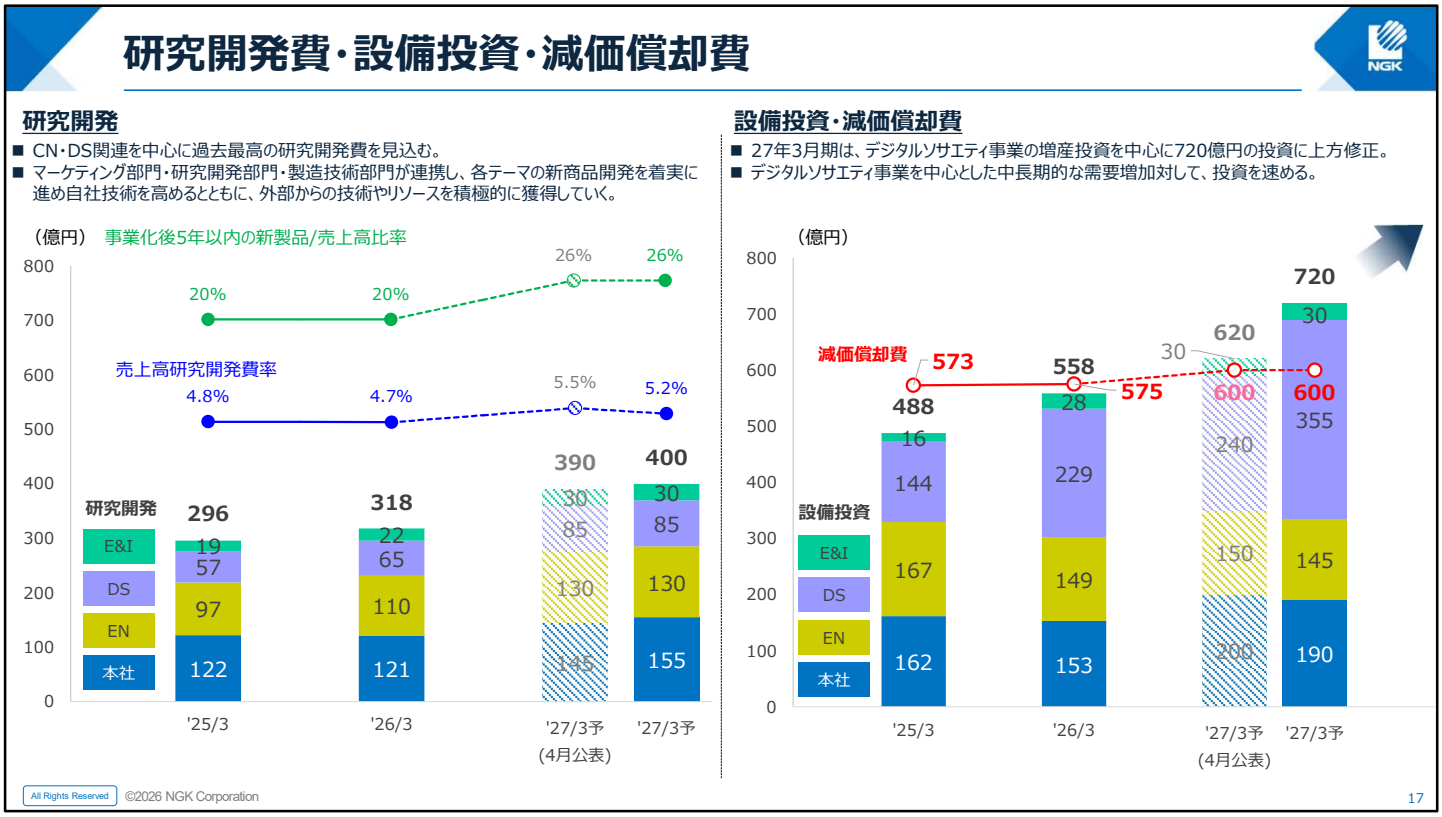
具体的には、セラミックパッケージは新しい事業体制での運営がスタートし、今後は高付加価値製品への注力を進めます。絶縁放熱回路基板は、事業のあり方の抜本的な見直しを進めております。

こうした取り組みにより、成長性と資本収益性を高め、資本コストを継続的に上回るエクイティ・スプレッドの拡大を目指してまいります。



２６年５月に発表した長期経営計画でもご説明した通り、
当社はＤＳを中心とした新事業化品によって、売上高として、
２０３０年に１,０００億円
２０３５年に３,０００億円超に挑戦していきます。

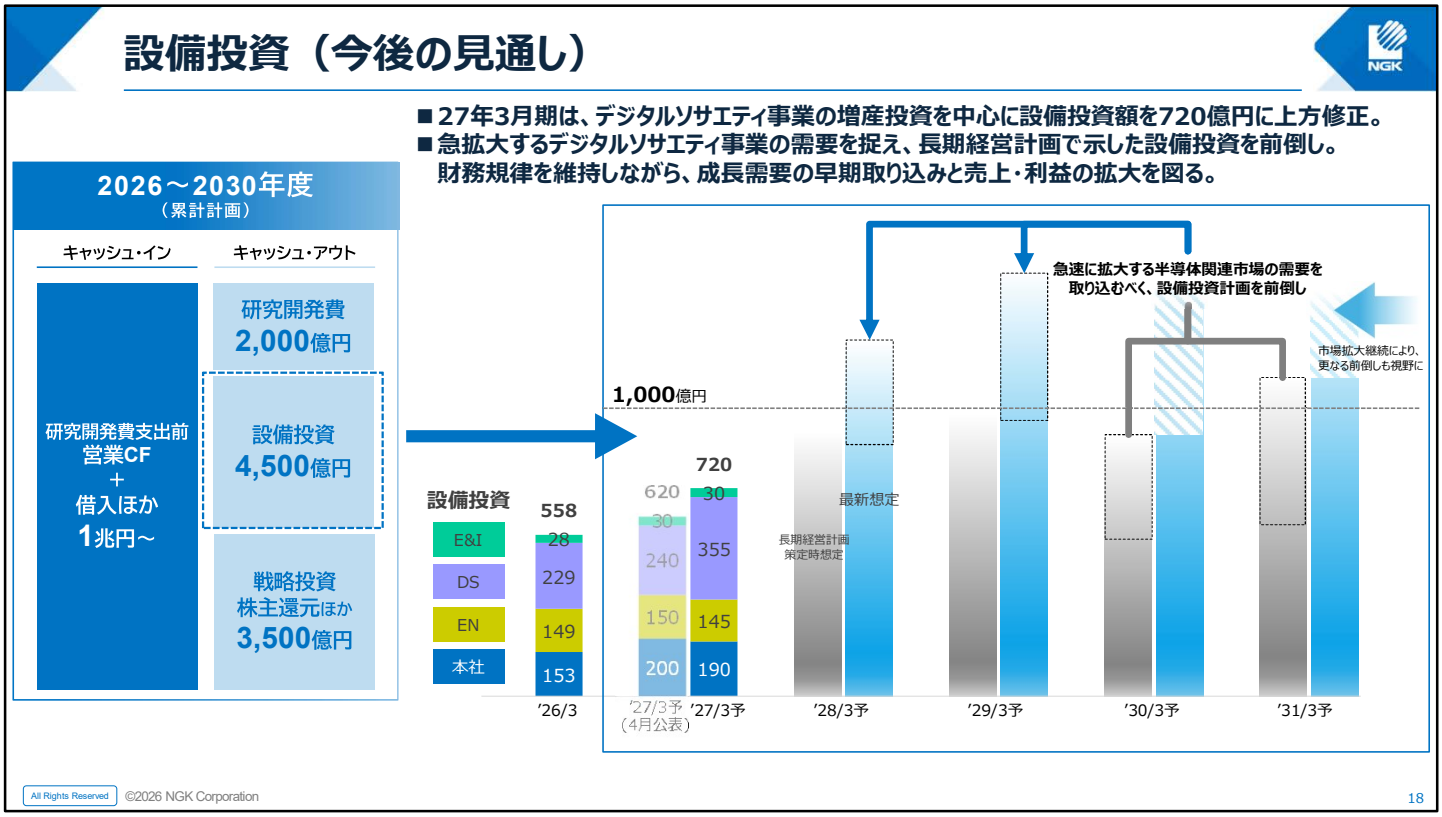
事業化済みのハイセラムキャリア や ガソリンセンサー、事業化を目指しているエネルギーソリューションに加え、ＤＳのデータセンター周辺、高速無線通信などの分野でニッチトップとなる製品群、さらに環境・ＣＮ関連製品を積み上げることで、２０３５年度での新事業化品売上高
３,０００億円を実現してまいります。



研究開発費については、先ほどご説明したＮＶ１０００およびＮＶ３０００の達成に向けて高水準のインプットを行っております。
今期は４００億円を予定しております。
カーボンニュートラル・デジタルソサエティ関連を中心に高水準のインプットを継続し、事業化の加速を図ってまいります。

設備投資については、ご覧の通り、デジタルソサエティ事業の需要拡大に対応するため、設備投資の見直しを図り、検収ベースで総額７２０億円に増額しております。

次のスライドで詳しくご説明させていただきます。

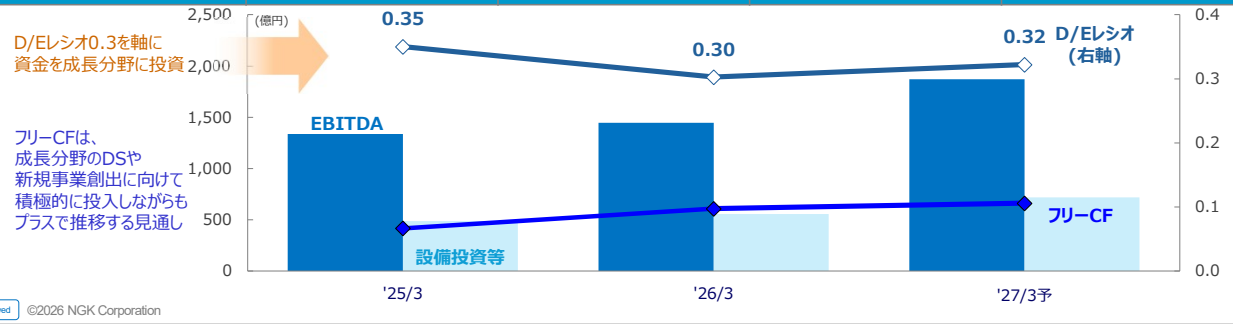


ＤＳの需要拡大に対応するため、当期以降も同事業を中心に生産能力の増強を進めていきます。
当面の設備投資額は、長期経営計画で想定した投資を前倒しで実施することで、増加する見通しです。

３０年度に向けて、更なる前倒しも視野に、需要動向に応じて投資時期や配分を見極めてまいります。投資の前倒しによって、成長需要を早期に取り込み、長期経営計画で掲げる２０３０年度の業績目標達成のペースを速めていきます。

要約キャッシュフロー

(億円)	'25/3	'26/3	'27/3（予）	
			4月見通し	今回見通し
営業キャッシュフロー	967	1,380	1,260	1,260
投資キャッシュフロー	△551 設備投資支払△437	△771 設備投資支払△555	△660 設備投資支払△620	△600 設備投資支払△720
財務キャッシュフロー	△342 新規借入＋251 返済△318 自己株買付△94	△483 新規借入＋400 返済△514 自己株買付△150	△682 新規借入＋300 返済△391 自己株買付△330	△322 **新規借入＋700** 返済△406 自己株買付△310
換算差額等	△11	93	0	△54
現金及び現金同等物の増減	63	219	△82	284
現金及び現金同等物期末残高	1,777	1,996	1,915	2,280



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

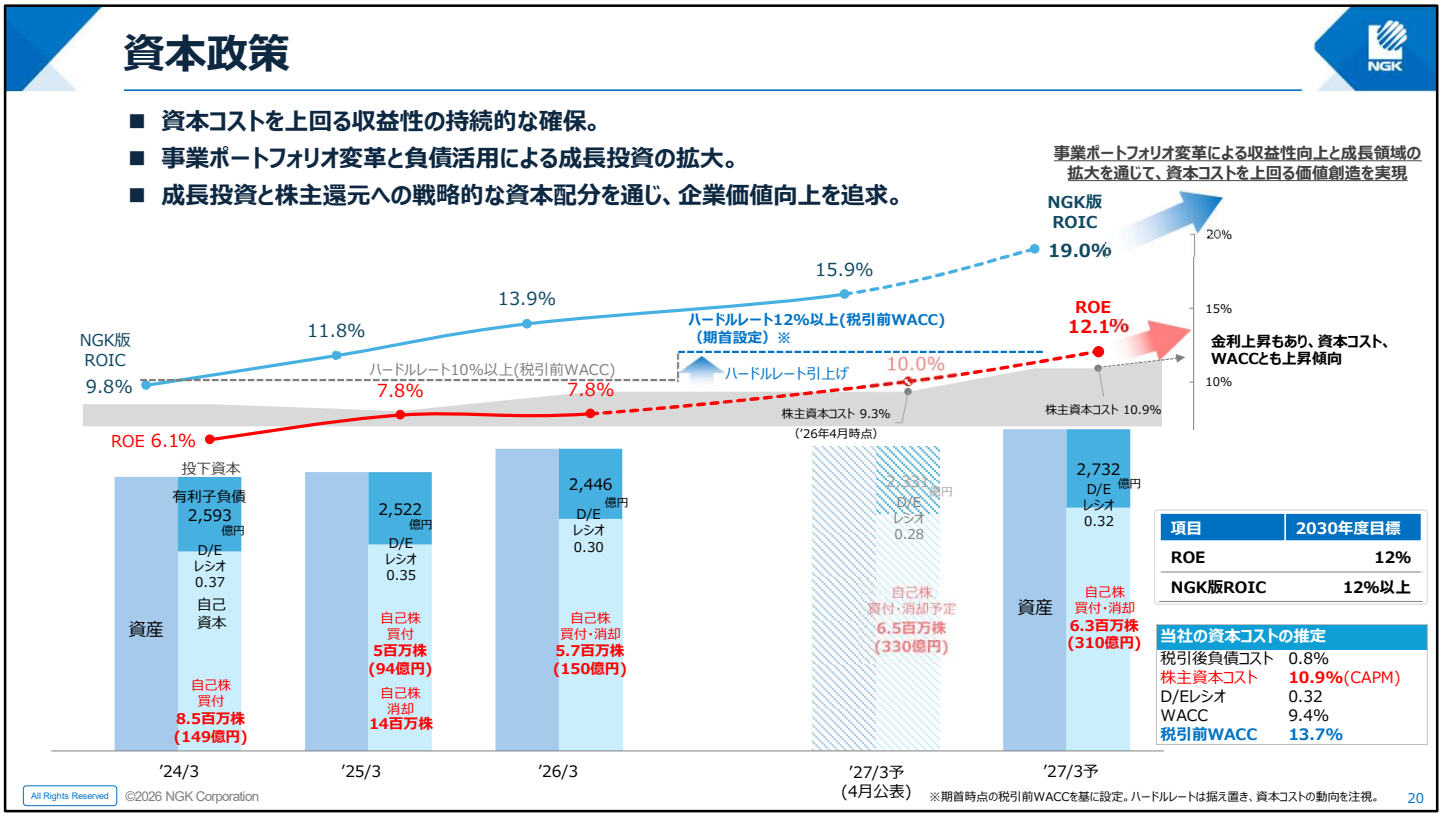
19

当社の連結ベースでの要約キャッシュ・フローをご説明します。

２０２７年３月期の現金及び現金同等物の期末残高は、前期比２８４億円増加の２,２８０億円となる見通しです。

当期のフリーキャッシュフローは６６０億円を見通しています。

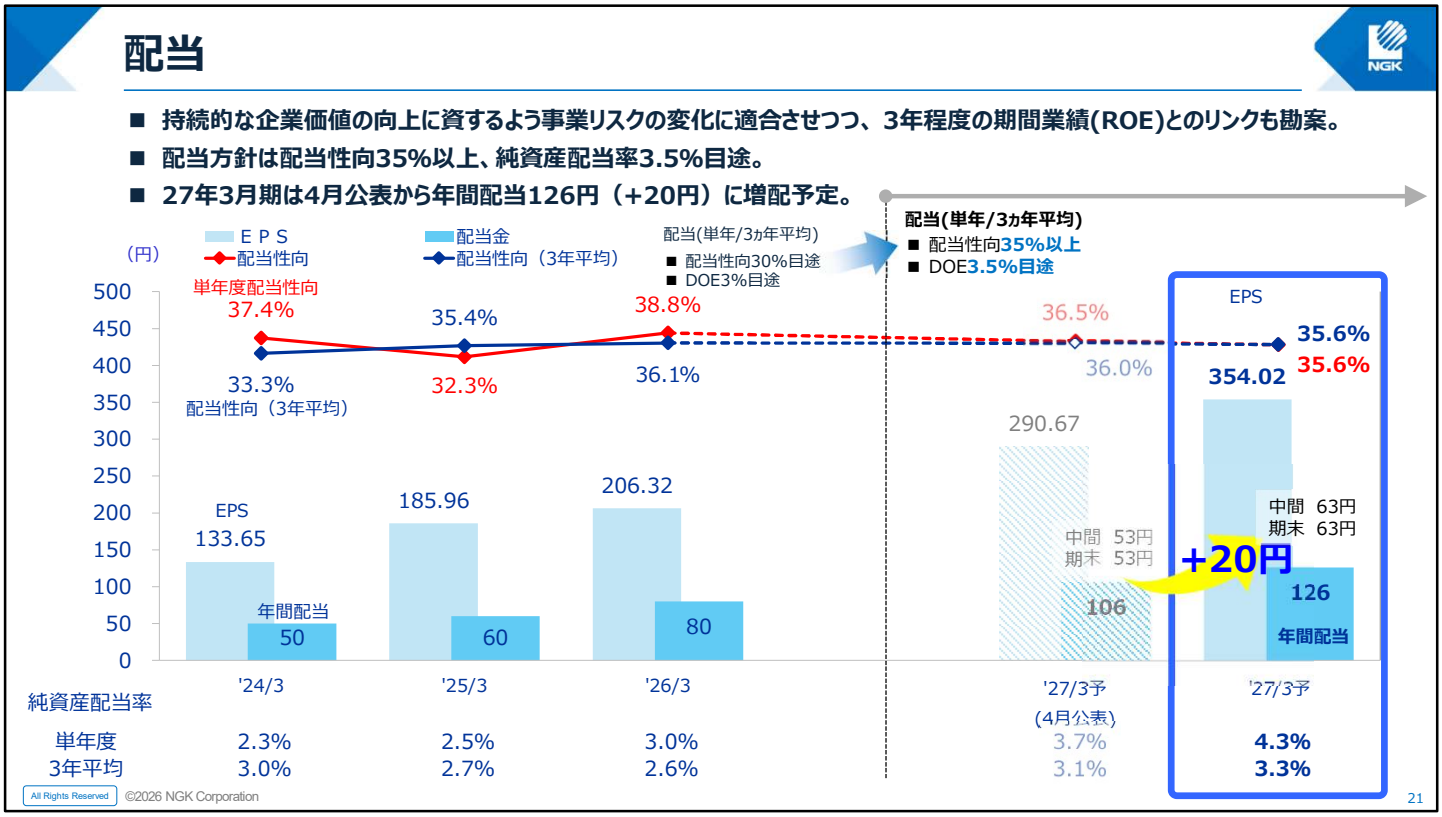
財務活動によるキャッシュフローは、４月見通しの借入金３００億円から４００億円増額の７００億円を予定する一方で、借入金の返済に加え、自己株式の取得もあり、約３２２億円の支出となる見通しです。



次は資本政策です。当社は、資本コストを上回る収益性の確保と財務健全性を両立し、中長期の観点から積極的な株主還元を行いつつ利益率、資本回転率、財務レバレッジを事業戦略と整合した健全な水準に保つことを意識しています。

グラフは当社の投下資本と経営指標を示しています。
２０２７年３月期については、堅調な業績を反映し、
ＮＧＫ版ＲＯＩＣは１９%、ＲＯＥは投資有価証券の売却などの一過性の要因もあり、１２.１%となる見通しです。

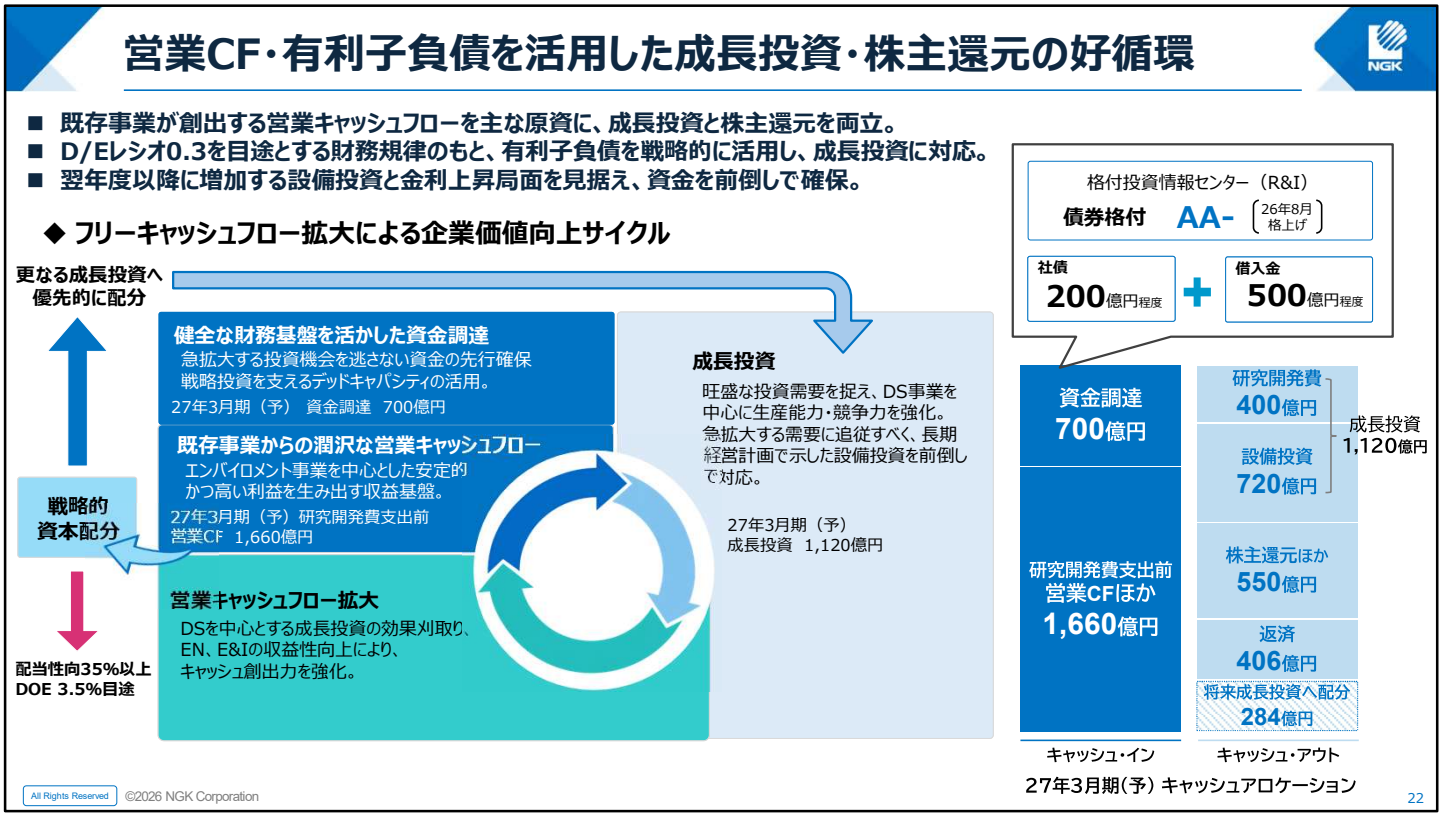
今後の成長投資を織り込んだうえで、投資の収益化と適切な財務レバレッジの活用を進め、ＲＯＥ向上を目指してまいります。



今期の配当見通しについてご説明します。

当社は、当期より配当金方針を見直し、連結配当性向３５%以上、純資産配当率３.５%を目途としています。

当期の一株当たり利益は３５４.０２円となる見通しであり、新たな配当方針に従い、２０円増配とし、中間は６３円、期末も６３円の年間配当１２６円とさせて頂く予定です。



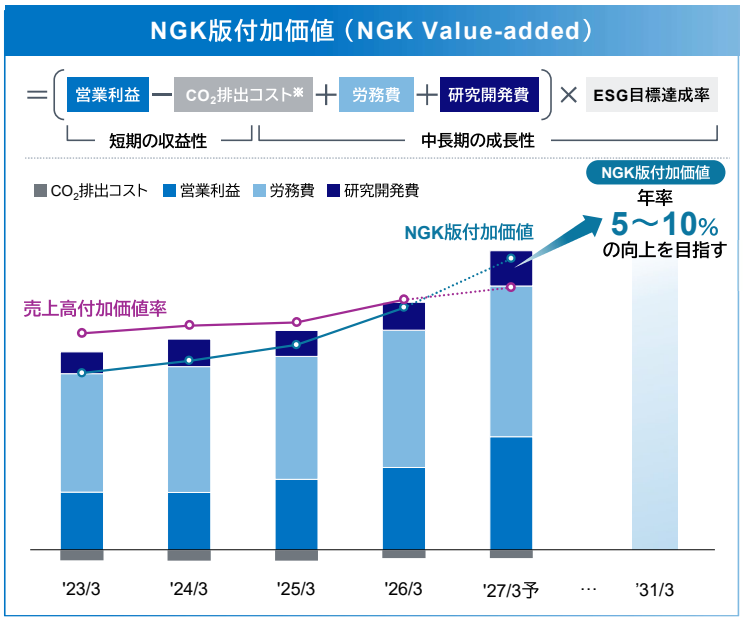
このスライドでここまでご説明した内容をまとめております。

既存事業による安定的なキャッシュフローを主な原資としつつ、財務規律を維持しながら、有利子負債も戦略的に活用し、成長に向けた投資を高水準で継続してまいります。

今年度は、翌年度以降も拡大する設備投資と金利上昇局面を見据えながら、社債と借入金合計で約７００億円を調達します。

NGK版付加価値の拡大と挑戦する企業文化の醸成

・営業利益の持続的成長と研究開発・人的投資・環境負荷低減を両立し、財務・非財務両輪で企業価値向上を図る。



挑戦する企業文化の醸成

従業員エンゲージメント「挑戦」スコア　2025年 3.3 → 2030年目標 3.8 へ改善

▶経営層のコミットメント強化

役員報酬の業績連動賞与の評価軸に、**今年度より新たに従業員エンゲージメント向上、NGK版付加価値向上 等を追加**。
持続的な成長に対する行動を促進する。

▶ポートフォリオ転換への挑戦を後押しする人事制度の充実化

- **2024年6月　新規事業提案プログラムを開始**
  ・全社員を対象に、部門を超えた共創環境を整備
- **2025年4月　基幹職人事制度を刷新**
  ・職務・役割に応じた等級・報酬を設定
  ・キャリアパスの複線化
  ・社内公募拡大、スカウト制度導入
  ・変革・挑戦を行動評価へ反映
- **2025年10月　基幹職向け株式インセンティブ制度を導入**
- **2026年10月　挑戦支援策を拡充**
  ・「新任地挑戦支援金」を新設し、新たな環境・役割への挑戦を後押し

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

23

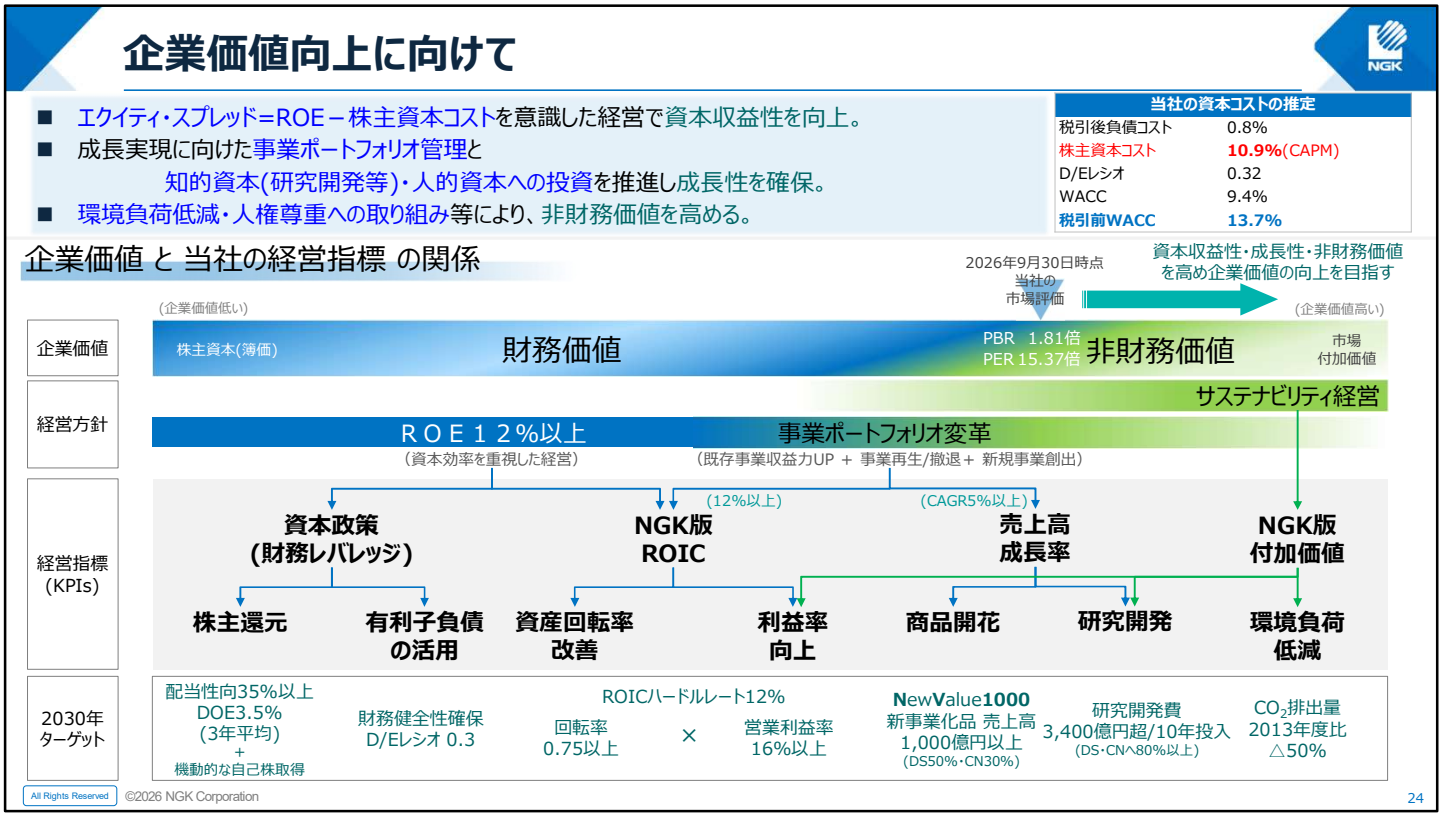
続いて、中長期のポートフォリオ転換を推進する、非財務価値向上の取り組みについてご説明します。

当社は、短期的な収益性の向上に加え、中長期の成長に向けた研究開発や人・環境への投資を着実に進めることが、企業価値の向上につながると考えています。
その進捗を測る独自指標として、営業利益に労務費、研究開発費を加え、ＣＯ2排出コストを差し引いた「ＮＧＫ版付加価値」を設定し、年率５～１０%程度の成長を目指しています。

また、従業員一人ひとりが自律的に行動し、挑戦を通じて価値創造に取り組む組織を実現することで、事業構成転換を加速していきます。
その指標として、従業員エンゲージメントの「挑戦」スコアを、現在の３．３から２０３０年に３．８へ引き上げることを目標としています。

こうしたＫＰＩを単なる目標にとどめず、経営としてその実現を加速するため、今年度から役員報酬の評価指標に組み込みました。

同時に、従業員が実際に一歩を踏み出し、挑戦できる環境づくりも進めています。今年度はその一環として、新たな環境での挑戦を後押しする「新任地挑戦支援金」を新設しました。



最後に、本日ご説明した施策と企業価値向上との関係をまとめています。
事業ポートフォリオ変革、成長投資、資本政策を一体で推進し、
財務価値・非財務価値の向上を通じて企業価値向上を実現してまいります。

事業別 売上高（通期）

（億円）

<セグメント間売上高消去後>	24年3月期	25年3月期	26年3月期	27年3月期（予）
ハニカム	901	912	944	980
GPF	498	511	528	570
Cd-DPF・大型ハニカム	855	792	748	840
SiC-DPF	719	733	787	810
センサー	646	617	681	790
産業プロセス※	288	338	227	260
エンバイロメント合計	3,907	3,904	3,915	4,250
半導体製造装置用製品	865	1,138	1,433	1,830
電子デバイス	261	313	339	560
金属	256	265	283	360
デジタルソサエティ合計	1,382	1,716	2,054	2,750
エナジーストレージ	21	65	118	
エネルギープラント※			105	110
がいし	479	511	510	570
その他				20
エネルギー＆インダストリー合計	500	576	732	700
全社合計	5,789	6,195	6,701	7,700

※1 2025年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスをエネルギー＆インダストリーからエンバイロメントに移管しています。
この変更に伴い2024年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。
※2 2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。
この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

事業別 売上高（上期･下期）

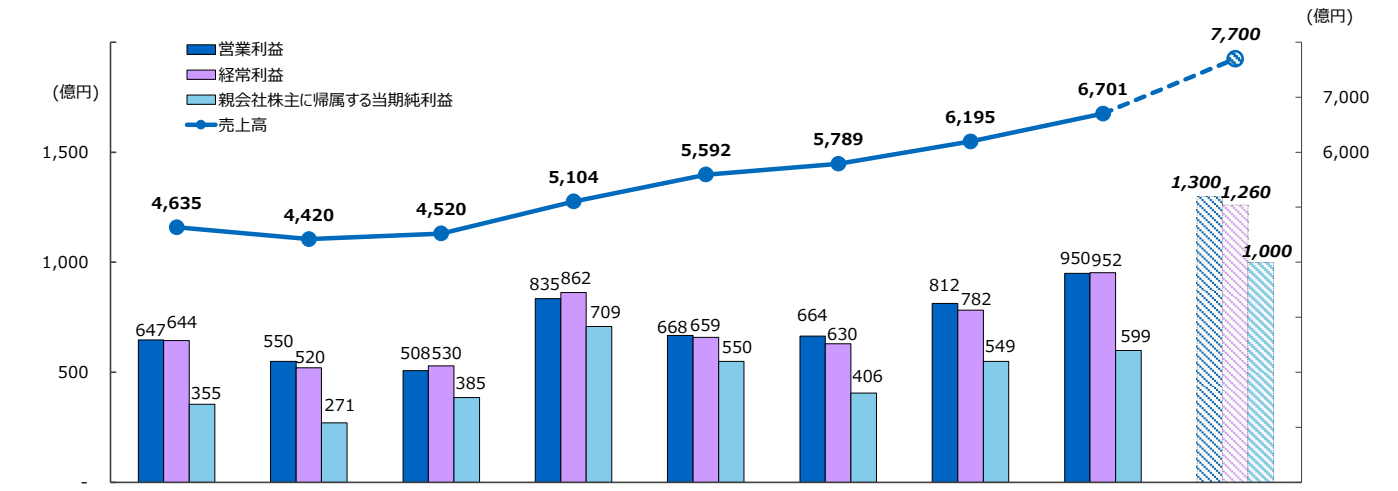
（億円）

<セグメント間売上高消去後>	26年3月期		27年3月期（予）	
	上期	下期	上期	下期
ハニカム	466	478	498	482
GPF	270	258	253	317
Cd-DPF・大型ハニカム	373	376	429	411
SiC-DPF	381	406	403	407
センサー	329	352	385	405
産業プロセス※	106	121	115	145
エンバイロメント合計	1,925	1,990	2,082	2,168
半導体製造装置用製品	697	735	865	965
電子デバイス	150	189	271	289
金属	131	152	164	196
デジタルソサエティ合計	978	1,076	1,299	1,451
エナジーストレージ	67	51		
エネルギープラント※	51	54	61	49
がいし	241	268	267	303
その他			4	16
エネルギー＆インダストリー合計	359	373	332	368
全社合計	3,262	3,439	3,713	3,987

※ 2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。
この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

業績推移



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（予）
為替レート									
USD	111円	109円	106円	113円	135円	144円	152円	151円	155円
EUR	128円	121円	124円	131円	141円	157円	164円	175円	180円
ROE	7.6%	5.8%	7.9%	12.9%	9.0%	6.1%	7.8%	7.8%	12.1%
EPS	110.35円	84.73円	121.61円	226.56円	177.47円	133.65円	185.96円	206.32円	354.02円
一株当たり配当金	50円	50円	30円	63円	66円	50円	60円	80円	126円

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

NGK
Surprising Ceramics.

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。
本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。

【問合せ先】
〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56
ＩＲ窓口 ： 財務部 開示グループ
Tel： (052) 872-7210　Fax： (052) 872-7160
E-mail： ir-office@ngk.co.jp
Website： https://www.ngk.co.jp